

と我のみ。彼に對せし其一刹那の我神！黄昏の寂寞に耳傾けし其瞬時！！そも現身なるか？料らざりきかゝるインスピレーションの我胸に通はんとは。吾はしも今自然に直感せるなりき。我に歸れば、佇みし徑はわづかにほの白く弦月低く西の彼方に懸れり。空腹を感ずること甚しかりければ急ぎ宿に歸れぬ。

明日關山の町を徘徊す。四十餘年の往昔は越後街道の一宿、有繫に其面影は残れども、今は只寂びれ行く世の態や。關山神社に詣る妙高の里宮とか、鬱蒼森なせる老杉、色褪せたる華表、頽廢せる社祠、皆よく變遷を語る。此地に來り實際を看て一驚を喫せしは、婦女のよく男子にも劣らず勞作に服することにて、豫れて聞きしに違はぬ越の風習、都人士等の觀なげ其奇異なるに驚くべし。家並の面白き所二ヶ所寫す。間もなく雨に追はれて宿に逃げ歸る。此日上り三番にて歸路につきぬ。車中に在りても尙彼地に在る如く、殊に遺憾なりしは音高き北國の雪景を觀得ざりし事にこそ。

### 尾瀨沼

#### 浪華 浪客

尾瀨沼といふ處が先生方の御紹介にて私共にもよく分りました繪を拜見してその絶景な場處を想像すると直ぐにもゆき度になりました、本文を読んで見て、私の尾瀨に焦れ尾瀨を慕ふ念は益々募りました。畫家未到の地、五夜の野宿の小屋住居何等の壯舉ぞや！それにつけても先生達の用意の周到なるには大に感服

致しました、飽屑の蒲團は如何、私もいつか必ずその上に寝て、先生方當時の旅行を忍ぼうと思ひます、尾瀨ヶ原では末見の私も死んでもよい程美しい處として、毎夜夢に想像してゐます。私は改めて先生方のかゝる壯舉を敢てせられし元氣を喜び、其勞を謝するものであります、何卒此後もこのやうな臨時増刊を年三四回宛御刊行を願ひます。

#### 誤解

#### T K 生

水彩畫を見て、五十になる人と五十六になる人との間に、こんな會話が交換された

「フォーム俺達の時分には畫なんて事はチツトモ習はせなかつたものだが今ちや何から何迄學校で習はせるんだな」

「そうさ、今はモウ何でも西洋でね、畫でも昔は墨でサラ／＼とかいたんだが、西洋の畫は全て寫真だ、ツマリ本當の様に見えればよいので、筆の面白味だの雅だのといふ物は少しもない、ダン／＼是で進むて行つたら風流氣なんてものは、マルキリ無くなつてしまふだらうよ」

「だけど、是で重寶だ旅でもしていゝ景色が見付かつた時等は之を習つて置くと寫真器なんて要らない」

是は今起つた事實である僕は何とも言へなかつた。

\* \* \* \* \*